

# 学校関係者評価報告書

平成27年8月1日開催  
 学校名：名古屋工学院専門学校

## 1 学校目標

- ・教育の質の維持・向上
- ・進路決定率・就職率の向上
- ・在籍数の確保
- ・社会貢献、地域貢献のための活動
- ・組織基盤の強化

### 学校目標に対する評価・意見

- ・評価方法など他と比べても真摯に行われ、数値的にも毎年改善されているので、このまま継続して頂きたいと思います。
- ・資格教育として目指せる学科は良いですが、デザインなどは学校からわかりやすい到達目標（コンテストの入賞で無く、頑張れば合格できる学内資格（例：キャラデザ2級）があるとよいかも知れません。
- ・各目標について、問題なく達成されており、学校の活動として評価できる内容である。
- ・学校の目標を適切に設定し、評価内容も具体的である。
- ・評価の見える化の取組みを期待する。例えば、5つのポイント（教育の質の維持・向上、進路決定率・就職率の向上、在籍者の確保、社会貢献・地域貢献のための活動、組織基盤の強化）の達成度を数値化し、チャートグラフで表わす。
- ・教育の質の向上について、適切な向上があったと判断します。
- ・教育内容の質について、グランドスラバスの作成は今後様々な活用が期待できます。
- ・今年度、募集全学科について、グランドシラバス（学科の最終育成目標、学年ごとの達成目標、達成するための教科内容及び取得する国家資格・技能・技術が一覧で記載）が整備されました。卒業までの学習内容全体を把握することができ、学生にとっても計画的に行うツールとなり大変評価できます。外部への公開も検討中とのことです。早期に実施されてはいかがでしょうか。
- ・質の向上という面では、実践的にも成果が出ていると感じられる。
- ・不断的努力と健闘の結果が学生たちにも実感でき体感できる環境が益々整っていている感じがあり期待できる。
- ・学生の就職活動に対しては、6月時点の就職率も高く、学校側の指導、支援の評価が数字として出ていると感じられる。
- ・まじめが一番！その言葉どおり、まじめな学校であると感じました。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1（教育理念・目的・育人人材像等）	4.0	3.7	3.8
基準2（学校運営）	3.8	3.7	3.5
基準3（教育活動）	4.0	3.8	3.8
基準4（教育成果）	4.0	3.8	3.8
基準5（生徒支援）	4.0	3.7	3.5
基準6（教育環境）	3.7	3.5	3.5
基準7（生徒募集と受け入れ）	3.8	3.7	3.7
基準8（財務）	4.0	4.0	3.7
基準9（法令等の遵守）	4.0	3.8	3.7
基準10（社会貢献）	4.0	3.7	3.7

### 3 今後の改善意見

- 1) クラウドサーバつまり単独でのサーバ設計・運用だけでなく、群としてのサーバ設定・運用などもあると良いと思います。
- 2) 仕方が無いことですが、デザイナースキルの差が出てしまいますので、中位クラスの生徒の底上げにも、さらに積極的に取り組んで頂けると嬉しいです。
- 3) 採用を検討する企業への情報公開をご検討下さい。(教育内容の公開)
- 4) 就職率は非常に高い状況にありますが、短期間での離職等、就職に関するアンマッチがおこっていないかの把握をご検討ください。
- 5) 少子化の中、発展的に学校を運営させるために、学生を引きつけるダントツな教育効果を持ち、発信する。得意とするところでトンガレ。
- 6) E n e - 1 G P の活動と学生のかかわり方のPR拡大。
- 7) 建学の精神を実現するためのキャリアガイダンスという科目は、指導教員に相当な負担がかかると思いますが、更なる強化をお願いします。(名産会の活用など)
- 8) 近年、サイバー攻撃による個人情報等の流出が問題となっており、来年4月から情報セキュリティ学科が新設されると思いますが、様々な情報がデータ化されて管理されている中、情報流出は、情報・IT関連の学科だけでなく、全ての学科に関連があると思います。10月からは、マイナンバー制度が実施される予定ですし、この機会に情報管理に対する授業を全ての学科に対して行ってはどうでしょうか。
- 9) 少子化が進むなかでの入学希望者の確保は厳しいところもありますが、一番の宣伝は学生の卒業後の社会における貢献度であり、その実績が将来、真に評価を左右することになると同時に、学校の知名度を向上することが大切だと思います。E N E - 1 グランプリ等の参加も目先の結果ではなく、学生一人一人が取り組む事に対してのモチベーションや意識レベルを大切に、今後も継続して行ってほしいと思います。知名度という面でいえば、鳥人間コンテストなど、マスコミ等での全国的な学校の紹介が放送される事も効果的だと思います。まじめが一番でありますし、まじめに思いっきり遊ぶ環境も拡大して行ってほしいと思います。学歴は出た学校の歴史ではなく、自ら学んだ歴史、自彊の場所としての環境作りをさらに進めていただきたいと思います。就職先の拡大と知名度の高い企業への内定実績を基本に即戦力として、社会に貢献できる人材を育てる専門的な学校として、より企業の職場環境に近い状況を体験できる実習内容を後援会関連企業等の協力のもと、校内設備での生産支援を取り入れて実践的に責任のありかたや、工程、プロセス、交渉等の様々な経験ができるプロフェッショナルスクールとして、より強い人材を社会に送り出して行ってほしいと思います。

### 4 今後の具体的な改善方策

- 1) クラウドサーバに関する授業科目を通して、より社会のニーズに合わせた実践的な教育カリキュラムの編成を検討していきたい。
- 2) 近年、学生の学力低下や能力低下が目立つようになってきている。デザイナースキルだけではなく、それぞれ学科においても学力差、能力差が表れ、課題にも挙げられているのが現状である。そのため、入学時から基礎学力や能力を上げる取り組みをして、それぞれの学科の特質に合わせて対策を実施している。今後も引き続き、底上げに繋げるための対策に取り組んでいきたい。
- 3) 現在、職業実践専門課程の認可学科(11学科)については、情報公開が義務付けられ公式Webサイトで公開をしている。認可学科以外については、学生募集用の情報として、学科の実績や成果を公開しているが、今後は各学科のカリキュラム内容をまとめた冊子を作成し、利害関係者に配布することを検討していきたい。
- 4) 近年、採用企業から1年も満たずに離職をする報告を数件受けている。学生自身が職業適正を把握できていないこともあるが、昨年度から性格や職業適性を把握するために、クレペリン検査を実施した。今後においても、キャリアガイダンス等の授業を通して、就業意識を持たせる方策や、職種における適正を踏まえて、職業教育および就職斡旋に取り組んでいきたい。
- 5) 教育実績、成果をステークホルダーに知らせるための広報手段は、さまざまな方策があり、時代に合わせ、変化に対応していかなければ競合に勝てません。競合との差別化、企業・業界団体との連携を図り、継続的な成長をしていくための「教育の質」を向上させて、魅力ある学校づくりをしていく考えである。
- 6) 初めてE n e - 1 G P に参戦し、功績を残せる結果ではなかったが、学生自身の経験(場)を積ませる良き機会となった。今後は、関係の学生全員が関われる内容に発展していく必要があると感じている。技術面においても、多くの課題が挙げられ、次年度に向けて対策を練る必要があると考えている。この内容を踏まえて、実践教育の充実を図り、学生の活力を生み出す活動内容にして、PRに繋げていきたい。
- 7) キャリアガイダンスの授業は、職業教育の一環として就業意識を持たせ、社会人として必要な人間性も兼ね備えた職業人を育成する教育方針で実施している。昨年度から、その一環として名古屋工学院専門学校産業技術後援会が発足され、業界研究・企業研究等のセミナーを実施していただいている。後援会との連携した活動を通して、職業人の育成に努めていきたい。また、キャリアガイダンスの授業のあり方を再度認識して、強化をしていく考えである。
- 8) 本校では、個人情報保護法の遵守を徹底し、コンプライアンスの意識啓発に務めてきた。ご指摘のとおり、情報・IT関連の学科だけでなく、全学科に対して必要であり、社会的にも常識化している。職業教育をしている学校としてキャリアガイダンスの授業を通して、セキュリティ教育を充実していく考えである。
- 9) 学園建学の精神を具現化するために、学生一人ひとりが卒業後に社会で活躍できるように、教職員一人ひとりが学生の将来を考え、教育にあたる必要がある。学園のスローガンである「ありがとう、と言われること。」を推進していく上で、学生を育てあげるための工夫を常に考え、実証して喜ばれる結果をもたらし、学生自身が学んだ歴史を誇れる「学校の魅力づくり」を進めていかなければいけないと考えている。今後も実践教育を通して、人間性豊かで、社会貢献ができる人材育成に努めていきたいと考えている。